

## 委託事業成果報告書

所在地 島根県仁多郡奥出雲町上三所 410  
名称 NPO 法人島根教師力向上支援研究会  
代表者職氏名 理事長 吉川 廣二

### 1 市教委との連携

#### (1) NPO 団体として連携

今回の事業に取り組む以前にも様々な活動に取り組んできた。教員向けセミナー以外にも、子どもの夏休み体験教室やチャレラン大会、五色百人一首大会などを県内各地で実施してきた。

しかし、NPO を立ち上げる以前だったため、助成を受けられなかったり、後援許可をいただけないということもあり、活動の幅を広げることが難しいという実情もあった。浜田市教育委員会には、その当時からも後援許可をいただいていたが、NPO を取得したことで島根県が認めた団体として、安心して協力していただけるようになったのではないかと考えている。

また、今回の事業のように助成をいただけることで、安定した活動ができるようになったことは大きい。

#### (2) 親守詩島根県大会での連携

NPO 法人島根教師力向上支援研究会としての取り組みの1つに親守詩島根県大会がある。親守詩というのは、子どもが親への感謝の気持ちを五七五で書き、親がそれに返歌を返すというものである。

浜田市教育委員会をはじめ、浜田市、浜田市 PTA 連合会、(社)浜田青年会議所の後援をいただいて平成24年度からスタートした。浜田市内の全小中学生およそ4,000名にチラシを配布し、500作品の応募があった。今年度はさらに島根県、島根県教育委員会にも後援をいただき、第2回大会を開催することができた。

今回の事業は「教員」を対象にした研修会だが、親守詩大会のような「親子」を対象にした活動でも連携してきたことが、今回のスムーズな連携にもつながったのではないかと考えている。

### 2 今回の連携による成果

#### (1) 市内の全小中学校教職員への案内

今回の事業で実施する研修会を開催するにあたり、チラシによる広報活動を行った。浜田市内の全小中学校教職員へチラシを配布し、研修会の紹介をすることができた。

昨年春に同じ浜田市内で開催した研修会では、実行委員の手渡しによる広報活動が主であり、市内の教職員（全小中学校およそ700名）に幅広く情報を届けることが

難しかった。参加者も19名と少なかった。

今回、同じ地域で3回の研修会を実施したが、いずれも20～30名の参加者があり、情報を広く伝えたことによる効果があったことを示している。(図1)

また、開催に当たって、浜田市校長会で教育委員会担当者から説明していただいたことも信頼感につながったのではないかと考えている。同様に、浜田市教育委員会の岡田課長、森脇係長にも研修会に出席していただき、ご挨拶いただいたことも今回の事業が「連携」して行われていることをアピールする一助になった。

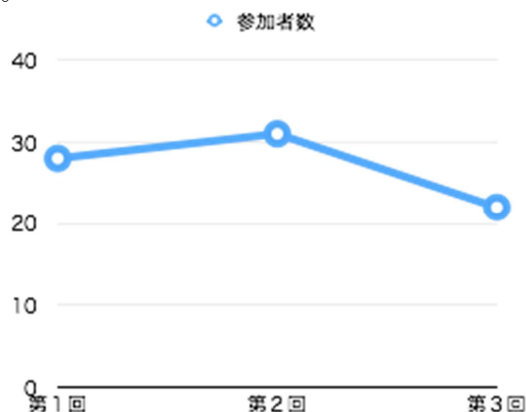


図1 参加者数の推移

## (2) テーマ

本事業に関する研修会はいずれも「特別支援教育」をテーマに実施した。特別な支援を要する子どもたちは増加傾向にあり、現場で児童生徒を指導する教師たちにとっても喫緊の課題である。校長先生以下6名の先生が参加された学校もあり、そのこともニーズの高さを物語っている。

参加者のアンケートより満足度を調査した。(第1回は満足度を数値化していなかったため、ここでは省略している。)各講座の満足度については下のグラフの通りである。5点満点でどの講座も4.4ポイント以上を得ている。また、各回平均も4.64ポイント、4.74ポイントと非常に高い満足度を得ていることが分かる。



図2 講座満足度

### (3) 講座内容

講座では、実際に自分の教室で行っている実践をもとに、現在の特別支援教育の知見から分析した内容を取り入れた。なかでも演習や体験を取り入れた講座は大変好評だった。(図3・図4)参加者が実際に体験したからこそ話の内容が分かっていたように見える。

また、講座形式以外にも実際の教室を想定した模擬授業やQ&Aも毎回行い、こちらも好評だった。

模擬授業では、ちょっとした問題点を取りあげ、なぜそのような問題点が浮かび上がったのか、またどうすればその問題点が解決するのか、特別な支援を要する子の視点から考えたり、指導技術や対応方法の工夫について紹介したりした。

Q&Aは一人一人の抱えている悩みに直接答えることができるので、特に満足度が高い傾向が見られた。

第1回研修会に参加した浜田市教育委員会岡田課長の感想を紹介する。

配慮が必要な子どもの特性を理解した上で、実際の授業をどのように進めていけばいいかという具体的なアドバイスとノウハウが詰まった講座でした。参加された先生方が授業づくりのノウハウが詰まった講座でした。参加された先生方が授業づくりのノウハウの引き出しを増やされ、実践に移していけることを期待します。発達障がいや脳科学の視点で見ていくといろいろなことが見えてきますね。山本五十六の『やって見せ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ』という言葉思い出しました。ありがとうございました。(浜田市教育委員会課長)



図3 研修会の様子



図4 微細運動障害の疑似体験

### (4) プレゼン能力の高さ

研修会のアンケートに毎回登場する言葉がある。それが「リズム・テンポの良さ」である。1つ1つの講座がリズム・テンポ良く進んでいくので「あっという間に2時間が

過ぎた」「集中して受けることができた」という意見が非常に多かった。

実は、この「リズム・テンポの良さ」は特別な支援を要する子を叱らずに指導していく上で必須の技能である。それを実際に体感してもらい、自分自身が「集中する」経験ができたことは大きい。これは、本を読んでいるだけではわからない部分であり、実際に足を運んで研修会に参加してもらうことの利点である。

### 3 今回の連携で見つかった課題

#### (1) 参加者の更なる拡がり

今回の浜田市教育委員会との連携を通じて見えてきた課題の1つは、「参加者の拡がり」である。たくさんの方に一度に案内できるというメリットがある一方で、教育委員会を通して配布するために少し時間がかかってしまった。研修会の企画をもっと早い段階で煮詰めておき、早め早めの行動が必要だった。

参加者（参加校）にも偏りが見られた。情報を届けるだけでは参加には至らないのだということがよくわかった。参加してくださった方の満足度は非常に高かっただけに「一度は参加してもらえる仕組み」「各校1名は参加してもらえる仕組み」を考えていく必要があった。今回、教育委員会担当者と「各校の胃特別支援教育コーディネーター」に参加要請をすることも案の一つとして出していたが、実現できなかった。こうした方向性も含めて来年度以降、検討していきたい。

#### (2) 内容の周知徹底

研修会での学びをどのようにして拡げていくのかも課題として挙げられる。特別支援教育の必要な子どもたちに関する知識や対応の技能を参加者だけの学びに終わらせず、広めていくことが重要であるが、今回はそこまで計画することができなかった。

学びを広める方法として次のことを考えることができた。その1つは浜田市教育委員会のネットワークを利用することが考えられる。教育委員会がもつサーバーを通して配信したり、教育委員会から各校へ資料を配布したりしていただくこともできるだろう。

もう1つは、本事業の研修会で講師を務めた教員を各校の校内研修へ派遣することである。学校単位の研修であれば、同じ学びを校内の教職員間で共有することができる。教育委員会からの推薦により各学校で同様の研修会を開催できれば、浜田市内で学びを共有することができる。そのためにも教育委員会との連携をさらに強化していくことが求められる。

### 4 今回の連携から考える次年度以降の方向性

#### (1) 浜田市教育委員会との共催での研修会を開催する。

本事業では、私たちの団体が中心となり内容を計画した。しかし、次回以降は教育

委員会の要望を取り入れた研修会も企画したい。特別支援教育は現場からのニーズが高い。今回の研修会はそのニーズ高い特別支援教育を講座に取り上げた。教育委員会もそのことを理解してくださっていると考えている。それでも浜田市教育委員会が実施したい内容もあるだろう。私たちの団体と教育委員会とがお互いのニーズを話し合い、できることを実施していくことを模索していきたい。

## **(2) 特別支援教育以外の様々な分野での連携を進める。**

私たちの団体と浜田市教育委員会は、本事業のほかにも親守詩島根県大会を協力して実施している。親子の絆をつなぐ親守詩大会のほかにも教育の分野で結びつきを強めることが出来るのではないかと考えている。今後、学校教育だけでなく家庭教育や親子活動、地域活動での連携を進めることができれば、W i n - W i n の関係を構築できるはずである。

どのような連携を進めていくことができるかを教育委員会と共に話し合っていきたい。